

# かんがたり 神語 Mith

安藤榮作 長谷川浩子 水島太郎



a part of the phoenix 2016 Eisaku Ando



to the sky 2016 Hiroko Hasegawa



dear 2016 Taro Mizushima

**GALERIE ASHIYA SCHULE** ギャラリーあしやシュール

2017年3月25日・4月23日

Opening Reception 3月25日4時30分

ギャラリーあしやシュールでは、3月25日より4月23日まで、安藤榮作、長谷川浩子、水島太郎の3作家による作品展「かんがたり～神語」を開催致します。

かつてない繁栄と混乱を極める現代社会を読み解くため、芸術家は近未来の姿を描きだしてきました。しかし、このかつてない繁栄された社会というのは、ルネッサンス以降たかだかこの四百年ほどの時間に出現した社会に過ぎません。古代ギリシャにおいては、靈感を受けた詩人が神々の行為を語ることが、アートそのものだったのです。

1961年東京生まれの安藤榮作は、1986年東京藝術大学彫刻科を卒業後、福島県いわき市に移住し、大自然の中で彫刻制作を続けました。東日本大震災で被災し、奈良に移住した後も、素材の物質性と存在の根源に迫る探求を続けています。自然木を手斧で叩いた荒々しい表面の彫刻は、有機的でのびやかなフォルムを形成し、人の魂や身体に宿る原初的な風景を表現しています。2014年の東京都美術館「祭、炎上、沈黙、そして。。POST 3.11」、2015年新潟市「水と土の芸術祭」、2016年川崎市岡本太郎美術館「つくることは生きること・震災[明日の神話]」等々に出品し、各地で活躍の場を広げています。

東京藝術大学で安藤と同級生であり、結婚後も活動を共にする長谷川浩子は、サクラ・ヒノキ・マツなどの自然物を素材に、白い胡粉をぬってつるつるに仕上げられた木彫作品を制作しています。それらは妖精、鳥、魚などをイメージさせ、生まれたての赤子のような瑞々しさと柔らかな光を放っています。自然界から独自の生命体を抽出し、普遍的な命を造形していくことが長谷川の探求の中心となっています。

水島太郎は、1979年京都鹿背山に生まれ、彫刻家である祖父水島弘一、父水島石根より脱活乾漆技法という古典技法を継承してきました。2002年関西大学フランス語学科を卒業後、渡仏。南仏ニース近郊のエズに住み、画家マークエステルのアトリエにて制作をはじめ、モナコ美術学校 Pavillion Bosio で学びました。

漆と砥粉を練り、麻布と共に形成する脱活乾漆は、7世紀から8世紀末にかけての仏像に使われた技法です。高価な漆を大量に用いる上に制作に手間がかかるため、奈良時代以降この技法で制作された作品は数少なく、唐招提寺の鑑真和上像（国宝）、興福寺「阿修羅像」、東大寺「不空罽索観音像」（国宝）などわずかに残っているだけです。

水島太郎は、東大寺修二会（お水取り）に十年以上前から参籠し、この数年は籠松明を担ぐ役を果たす練行衆処世界の童子にも携わっています。信仰がこの世から失ってしまった今、人間の意識の起源へ想像を膨らませながら、古典技法を現代美術として蘇生する作品を制作しています。

本展では「かんがたり」という言葉を手がかりに、文明化され強い自我をもった人間存在そのものを根底から捉え直し、アートの起源に迫る試みを行います。是非ともご覧くださいますよう、ご案内いたします。

## 安藤榮作

1961年東京下町生まれ。1986年東京藝術大学彫刻科を卒業。1990年本来の空気と水を体に取り込むために福島県いわき市の山中に移住し、20年間彫刻制作とサーフィンに没頭する。2006年同市の海沿いに引っ越し、2011年東日本大震災にて被災、自宅、アトリエ、数百点の作品、愛犬を津波で失う。原発事故を機に奈良県に避難移住する。原木や廃材を手斧1本で彫り刻み、具象抽象にとらわれず、ダイナミックな生命エネルギーを形にし続けている。

### 主な個展

- 2016「TO SOUL FROM SOUL・安藤榮作展」(MU東心斎橋画廊・大阪)  
「約束の船・2016 安藤榮作展」(Gallery OUT of PLACE・奈良)
- 2015「安藤榮作展・七福島神」(ギャラリー勇齋・奈良)  
「安藤榮作展」(ギャラリーアーティスロング・京都)  
「安藤榮作展」(堤側庵ギャラリー・三重)
- 2014「安藤榮作＋アーティストチャリティー2014」(Hibari-sya・新潟)
- 2013「光のさなぎたち・安藤榮作展」(原爆の図 丸木美術館・埼玉)  
「やおよろず会議・安藤榮作展」(ギャラリーメゾンダール・大阪)
- 2012「鳳凰・安藤榮作展」(ギャラリーあしやシュール・兵庫)以降'14にも開催
- 2011「天と地の和解・安藤榮作展」(橋画廊・大阪)
- 2010 a piece of space APS(東京)以降'13にも(APS & ギャラリー カメラ・東京)
- 2009「天の果実・新たな共生の芸術を求めて・安藤榮作展」(ギャラリー志門・東京) 以降 '11 '12 '14 '15 にも開催
- 2007「Breeze of Soul・EISAKU ANDO」(エキジビションスペース・東京国際フォーラム)
- 2003「N・E・blood 21 vol6 EISAKU ANDO」(リアスアーク美術館・宮城)
- 2001「アボリジニに捧ぐー森の人からのメッセージ・安藤榮作展」(いわき市立美術館)
- 1997 ギャラリーいわき(福島) 以降 '00 '02 '04 '06 '08 '10 '12 '14 '16 にも開催
- 1995 ギャラリーTAGA(東京) 以降 '97 '98 '99 '01 '14(TAGA2) にも開催
- 1993「10画廊からの発言・安藤榮作展」(ギャラリーK・東京)
- 1992「NEW ART SCENE IN IWAKI・EISAKU ANDO」(いわき市立美術館)

### グループ展

- 2016「光明の種 POST3.11」(原爆の図丸木美術館)  
「10wings 内なる翼」(almo ギャラリー・和歌山)  
「いま、被災地から・岩手・宮城・福島の美術と震災復興」(東京藝術大学大学美術館)  
「つくることは生きること・震災[明日の神話]展」(川崎市岡本太郎美術館)
- 2015「水と土の芸術祭」(新潟市)  
「学園前アートウイーク2015」(奈良)
- 2014「アリオス現代美術館」(いわきアリオス・福島)  
「開館20周年記念特別展・震災と表現・BOX ART 共有するためのメタファー」(リアス・アーク美術館・宮城)  
「ノン・音の祈り」(高野山大学黎明館、三宝院・和歌山)  
「祭、炎上、沈黙、そして。。。POST 3.11」(東京都美術館)
- 2013「アートミーティング・田人の森に遊ぶ」(福島)以後'14'16 にも。  
「2013・三義国際木彫芸術祭」(台湾)  
「光の降りる時代・25 Spirits」(MU 東心斎橋画廊・大阪)  
「やおよろずピースウオーク」ご神体制作(和歌山ピースウオーク)
- 2011「いま、つくりたいもの。伝えたいこと」(いわき市立美術館)
- 2009 大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ(松代農舞台ギャラリー・新潟)  
「岡本太郎の博物館・はじめる視点～博物館から覚醒するアーティストたち～」(福島県立博物館)
- 2008 丸木スマ展・世代を超えて共演(埼玉県立近代美術館)  
福島現代美術ビエンナーレYAMA(福島文化センター)
- 2005 アジアの潜在力・海と島が育んだ美術(愛知県立美術館)
- 2001 うつくしま未来博「森の人プロジェクト」プロデュース・制作(福島)  
ヴァイブレーション・結び合う知覚(宇都宮美術館)
- 1999 境界を超えて・立体表現の拡がりパートI(いわき市立美術館)
- 1996 福島の新世代 '96(福島県立美術館)

他/個展・グループ展・パフォーマンス・ワークショップ・作品設置など多数。  
また、エッセイ集や絵本「あくしゅだ(クレヨンハウス)」なども出版している。

## 長谷川浩子

1961 新潟県新発田市生まれ。1986 東京藝術大学彫刻科卒業。1988 東京藝術大学大学院彫刻専攻修了。

### 主な個展・グループ展

- 2016 グループ展アートミーティング2016旅人の森に遊ぶ/福島  
個展「長谷川浩子彫刻展」ギャラリー志門/東京
- 2015 個展「長谷川浩子新作彫刻展」ギャラリーいわき/福島
- 2014 グループ展「アリオス現代美術館」いわき文化交流館アリオス/福島  
個展「長谷川浩子 彫刻展」MU心斎橋画廊/大阪  
アート大阪2014 ホテルグランビア大阪  
アートミーティング2014田人の森に遊ぶ/福島  
AHAF SEOUL2014/ソウル  
「音の祈り」安藤栄作長谷川浩子二人展 高野山三寶院 高野山大学黎明館
- 2013 アートフェア東京 「ザ・コレクション玉響」  
個展「長谷川浩子彫刻展」ギャラリー志門/東京  
個展「長谷川浩子木彫新作展」ギャラリーいわき/福島
- 2012 個展「長谷川浩子展」橘画廊/大阪  
個展「長谷川浩子展」ギャラリーあしやシュレ/兵庫
- 2011 二人展「COSMIC SPIRIT 安藤栄作・長谷川浩子展」ギャラリー志門/東京  
個展 ギャラリーいわき泉ヶ丘/福島  
個展 「長谷川浩子 木彫展」77ギャラリー/東京
- 2009 個展 「長谷川浩子展」ギャラリー志門/東京
- 2008 グループ展「福島現代美術ビエンナーレ 2008」福島県文化センター/福島
- 2006 作品制作 草野天平 詩碑制作
- 2000 グループ展「いわきの美術V・境界を越えて」いわき市立美術館/福島
- 1998 個展「ニューアートシーン・イン・いわき 長谷川浩子」いわき市立美術館/福島  
公募展「雪梁舎展」雪梁舎/新潟  
受賞 雪梁舎賞受賞「雪梁舎展」
- 1994 グループ展「新しい世代の芸術展 94」北トピア/埼玉
- 1992 個展 プラザギャラリー/東京
- 1989 グループ展「第19回 現代日本美術展」東京都美術館  
他/個展・グループ展多数

## 水島太郎

1979 京都鹿背山に生まれる。彫刻家・祖父水島弘一、父水島石根より、脱乾漆技法などを伝承する。

2002 関西大学フランス語学科卒業、渡仏。南仏ニース近郊のエズに住み、画家マークエステルのアトリエにて制作。  
モナコ美術学校 Pavillion Bosio で学ぶ。

### 主な個展・グループ展

- 2016 個展 近鉄百貨店あべのハルカス本店ギャラリー/大阪  
第62回全関西美術展2席
- 2015 個展 create space tokyo/東京
- 2013 個展 大阪/京都/奈良/芦屋等で開催
- 2010 奈良平城京遷都1300年祭記念展覧会 日本韓国中国メタルアート展出品  
第56回全関西美術展3席
- 2008 京都ビエンナーレ2008 入賞
- 2007 フランスコルシカ島アジア祭フランコジャポネ出品/フランス
- 2005 グループ展 アトリエやま/京都
- 2002 ノルマンディーカン市国際展覧会出品/フランス  
その他、テレビ出演(テレビフランス2、ラジオフランスブルー出演、CATV KCN 京都出演、関西テレビよ〜いドンとなりの人間国宝出演)などメディア参加多数。